

# 2023年ドーハ国際園芸博覧会日本国屋内出展

実施計画書（Ver.1）

2023年3月13日

## I. 出展テーマ

1 カタール・ドーハ国際園芸博覧会概要	2
2 日本国出展事業概要	3

## II. 屋内展示計画

1 屋内展示の考え方	4
2 屋内出展施設	5
3 展示ゾーニング・動線について	6
4 展示会場イメージ図	7
5 展示構成	8
6 情報発信展示（震災支援の感謝）	11
7 情報発信展示（農業技術等）	12
8 商業活動促進支援について	12

## III. 出展勸奨&出品募集計画

1 出展形態及び出展勸奨について	13
2 花きPR・コンテスト出品勸奨について	15

## IV. 花き専門スタッフ

1 花き専門スタッフの募集と研修	16
------------------	----

## V. 行催事計画

1 オープニングセレモニー	17
2 ジャパンデーイベント	17
3 クロージングセレモニー	19
4 ビジネス意見交換会	19
5 体験・交流イベント	20

## VI. 広報計画

1 ホームページ及びソーシャルメディアの活用	21
2 パンフレット等（来場者用、事業者用）の制作について	22
3 メディア広報について	23

## 1 カタール・ドーハ国際園芸博覧会概要

### 正式名称

The International Horticultural Exhibition  
EXPO 2023 Doha Qatar

# 2023年ドーハ国際園芸博覧会

### 種類

国際園芸家協会によるA1クラス承認  
国際博覧会条約に基づく認定博覧会

### 開催テーマ

## Green Desert, Better Environment (緑の砂漠, よりよい環境)

中東地域で初のA1国際園芸博覧会。

砂漠化を抑制し、持続可能な環境を確立するための革新的な解決策について、参加者と来場者に奨励し、刺激を与え、情報を提供することを目的とする。

### 《サブテーマ》

Modern Agriculture  
最新の農業

Technology & Innovation  
テクノロジーとイノベーション

Environmental Awareness  
環境意識

Sustainability  
持続可能性

### 開催期間

2023年10月2日 (月) ~ 2024年3月28日 (木)

### 開催場所

カタール国ドーハ、アルビッドパーク (170ha)

### 想定来場者

300万人

### 参加国数

1月22日現在：53ヶ国 (最終70ヶ国の参加見込み)



## 2 日本国出展事業概要

### ■ 事業目的

2023年10月2日から2024年3月28日までの179日間、カタール国のドーハにおいて開催される2023年ドーハ国際園芸博覧会に公式参加する。

2023年ドーハ国際園芸博覧会は、A1クラスの国際博覧会条約に基づく認定博覧会であり、一般消費者とともにカタール等中東諸国をはじめとした世界の花き産業関係者が多数訪れることが見込まれる。この博覧会で日本の多様で高品質な花きと花きの文化、造園緑化技術について発信することによって国際社会での国産花きの評価を高め、日本の花き輸出拡大、緑化・環境技術の海外展開を図ることを目的とする。

### ■ テーマ

## Green Gift from Japan

日本の花きや先進的な緑化技術を「Green Gift」という形で官民連携により展示し、もって中東地域も含めた日本産花きの輸出振興を図るとともに、日本の緑化・環境技術の海外展開の促進を図る。

### ■ 出展方針

#### 《屋内展示》

屋内展示は博覧会事務局が整備するドーム施設に約200㎡を確保し、日本の優れた花き、花き文化等を紹介するとともに、本園芸博覧会のテーマ、サブテーマに関連する我が国の技術等を展示する。

#### 《屋外出展》

屋外出展はドーム施設に隣接する約800㎡の区画を確保し、枯山水等伝統的技法や、壁面緑化等の現代的緑化技術を活用した展示を行う。

\* 屋内・屋外展示において、2027年国際園芸博覧会について、横浜市、2027年国際園芸博覧会協会と連携してPRを行う。

### ■ 屋内展示 施設概要

#### 《施設の条件》

各国が出展する屋内展示施設予定地に博覧会事務局が整備する屋内展示施設内の約200㎡のスペースにおいて、隣接する屋外出展と連携して屋内展示を行う。

## 1 屋内展示の考え方

### ドーハ国際園芸博覧会のテーマ 緑の砂漠、よりよい環境

ドーハ国際園芸博覧会は、砂漠化を抑制し、持続可能な環境を確立するための革新的な解決策について、参加者と来場者に奨励し、刺激を与え、情報を提供することを目的とする。

上記テーマを踏まえた同博覧会のサブテーマ

最新の農業

テクノロジーと  
イノベーション

環境意識

持続可能性

### 日本国出展テーマ

日本の花きや先進的な緑化技術を「Green Gift」という形で官民連携により展示し、中東地域も含めた**日本産花きの輸出振興**を図るとともに、**日本の緑化・環境技術の海外展開の促進**を図る。

### 屋内展示における情報発信 (屋内展示基本方針より)

自然、風土、美意識を踏まえた、優れた花き、伝統ある花き文化

花や緑の有する機能、効用とそれが心豊かな生活の実現に果たす役割

砂漠の緑化、持続可能な開発等、本博覧会のテーマ、サブテーマに資する日本の技術

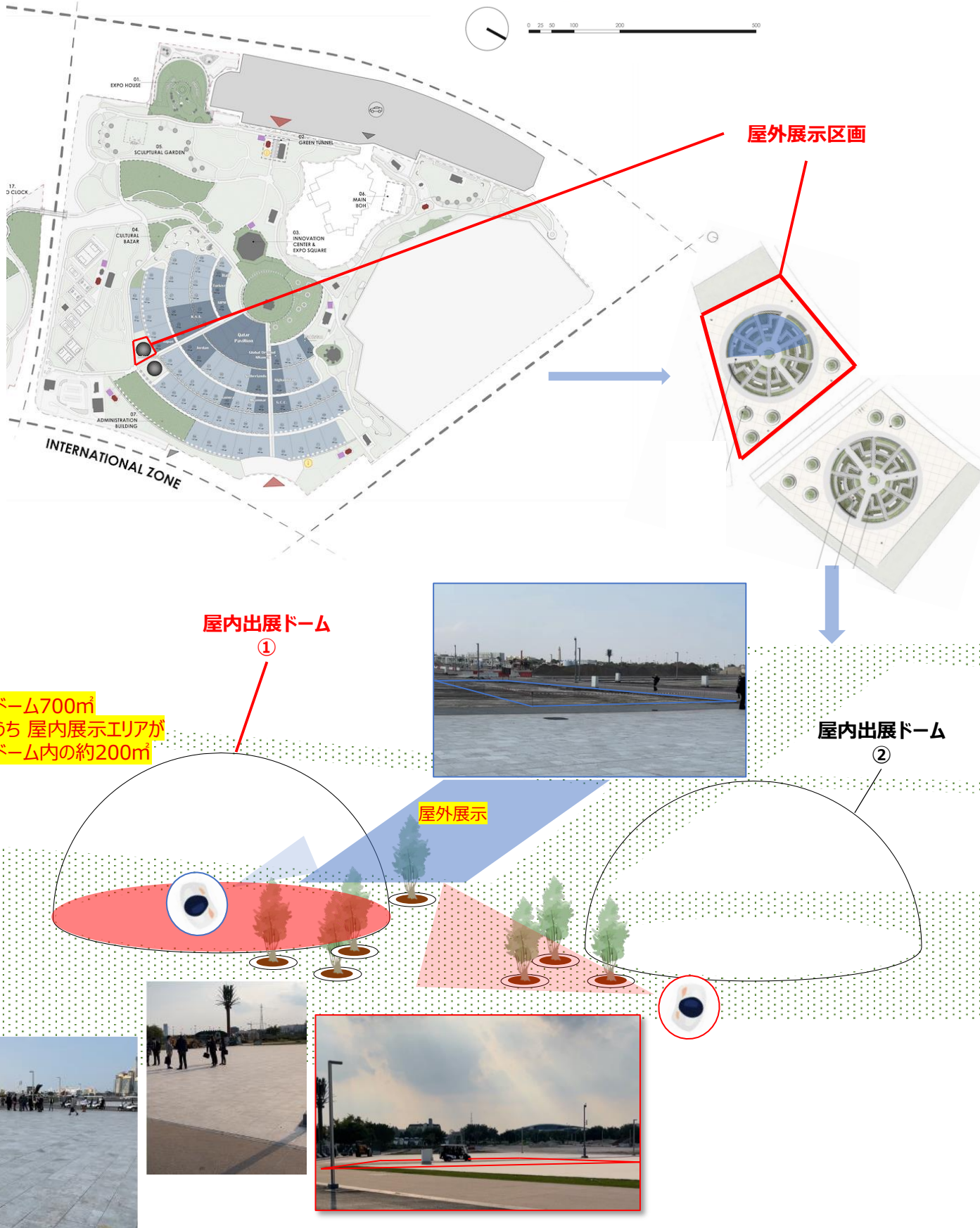
【屋内展示テーマ】  
花と緑のある心豊かな暮らしの実現  
自然との共生と再生循環の知恵

→ 2027年国際園芸博覧会（※）への展開

※花や緑との関わりを通じ、  
自然と共生した持続可能で幸福感が深まる社会の創造を提案

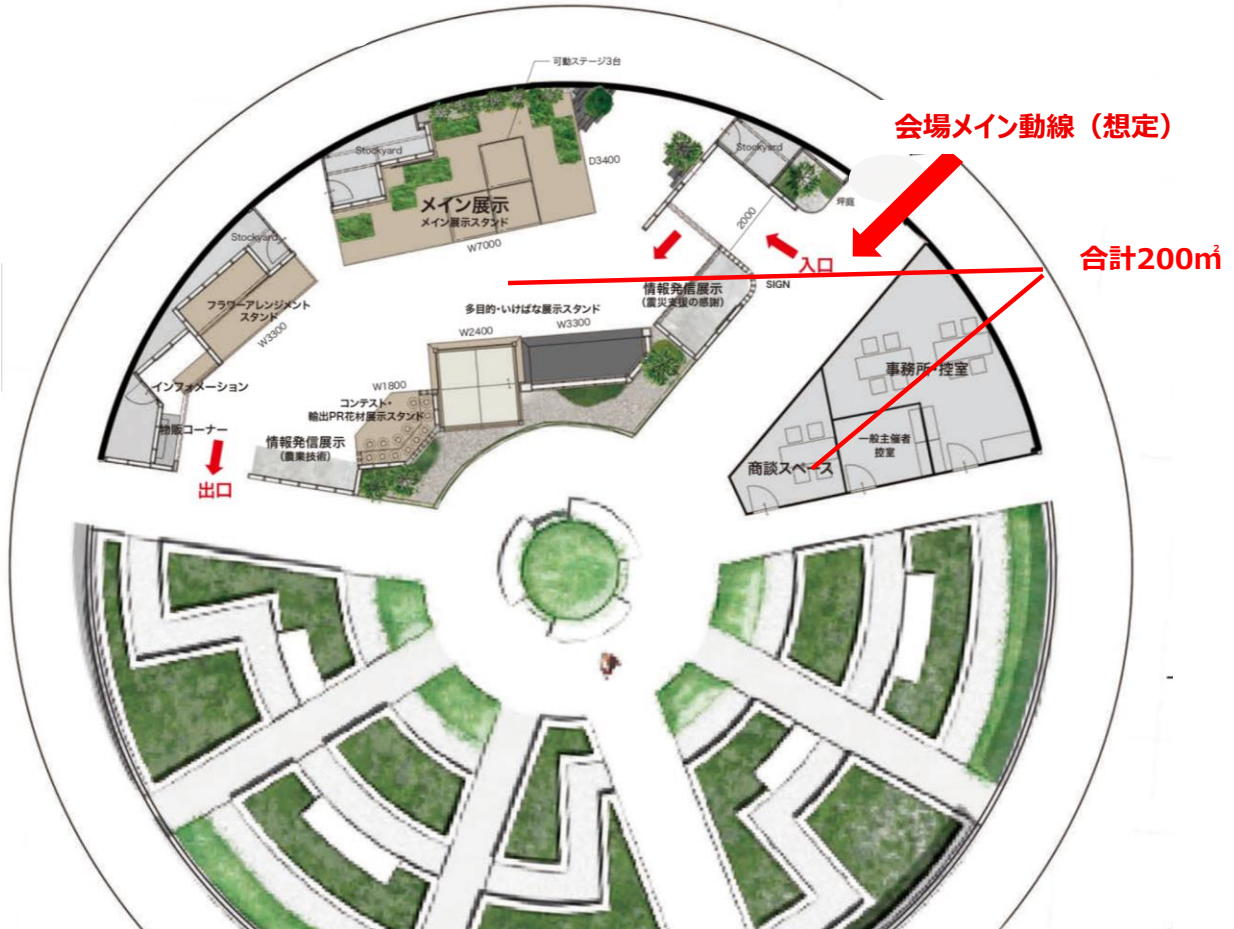


## 2 屋内出展施設



### 3 展示ゾーニング・動線について

多くの来場者を想定するため、館内は一方通行を基本とし、  
混雑時など必要に応じ入場制限を検討し、安全確保に務める。



#### 全ての人にやさしい会場計画

- インフォメーションは動線に沿ったわかりやすい場所に配置し、「インフォメーション」と明確にわかる表示を行う。
- 触れることのできない展示物などには注意を喚起するため、ピクトグラムサインを配置する。
- 角や出っ張りのある備品などを使用しないよう配慮する。  
またやむを得ず使用する場合は、スタッフによる注意喚起を行うよう徹底する。
- 展示台は、高齢者や障がいのある人など、様々な人が見やすいよう高さや傾斜などに配慮する。

#### 新型コロナウイルス等感染症対策

- 例
    - ・密を回避する一方通行による会場構成及び混雑時の誘導。
    - ・スタッフ全員のマスク着用の徹底。
    - ・展示ブース内の高頻度接触場所等に用いられる設備・ツール等は、抗菌コーティングを行う他、こまめに清拭、清掃を行う。
    - ・展示会ブース内及び事務所には手指消毒用のアルコールを配置。
- ※ 具体的には開催時のカタル国、博覧会事務局の感染症対策を踏まえて決定する。

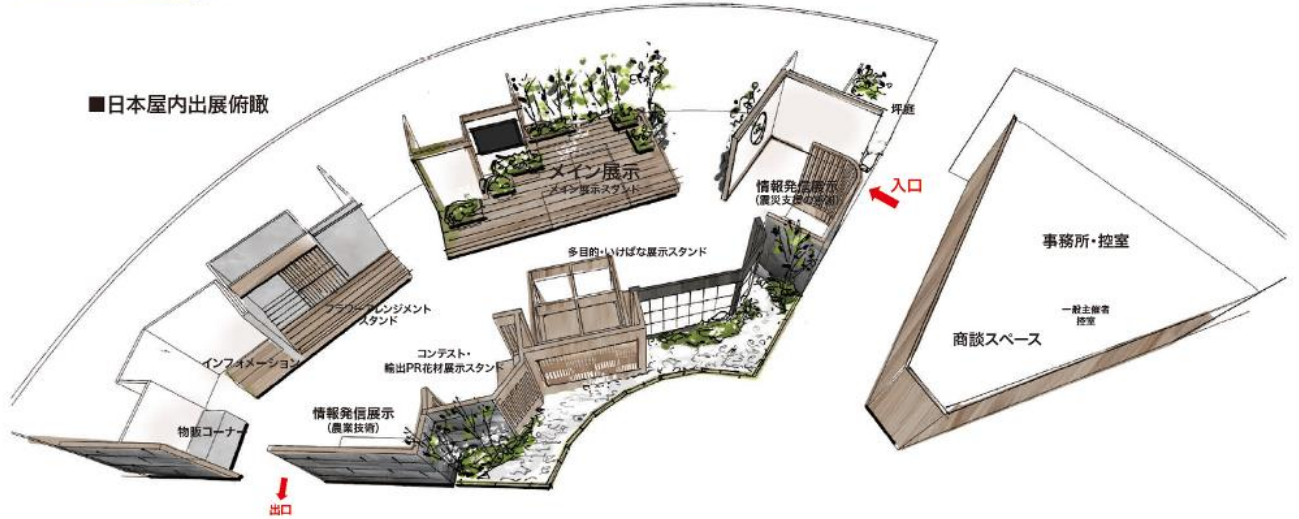
## 4 展示会場イメージ図

随所に日本らしさを演出した来場者の記憶に残る展示とする。  
実物や写真、映像等の様々な媒体を組み合わせ、フレキシブルな展示に対応した構成とする。  
展示品の知的財産権の確保については、防犯カメラの設置や手が届きにくい新品種展示の方法などの工夫や、  
日本専用の施設が出来る倉庫の確保などを行い、盗難防止を図る。

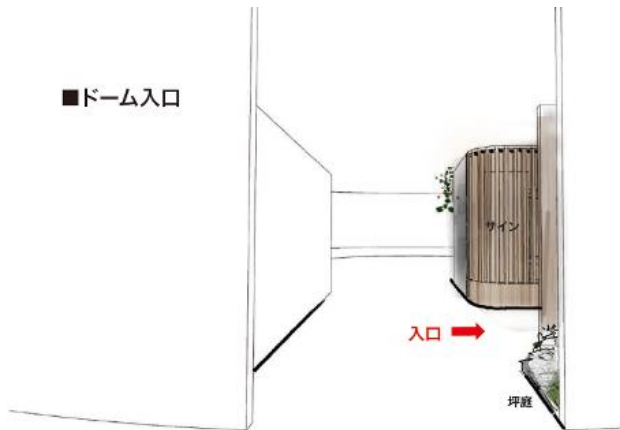
■日本屋内出展外景



■日本屋内出展俯瞰



■ドーム入口



■日本屋内出展入口





## 5 展示構成

### メイン展示スタンド

- ◎ 博覧会のテーマ、日本政府、屋内出展のテーマを踏まえ、園芸関連団体、企業・地方自治体等が出展展示を行う。特に2027年国際園芸博覧会協会・横浜市の協力を得て、2027年国際園芸博覧会のテーマに繋がる展示を行う。
- ◎ 展示ブース中央に位置し、インパクト・驚き、感動を与える展示コーナーとして展開する。
- \* オンライン出展時用（デモンストレーションやワークショップ等）の各種機材（映像システム、客席等）の準備。



### 多目的・いけばな 展示スタンド

- ◎ 各種イベント・パフォーマンスのスペースとしても活用。
- ◎ 多目的スペースとして上記のほか各種の多様な展示形態にもフレキシブルに対応できる場として活用する。
- ◎ いけばなの展示についても、このスタンドを活用して行う。

### 情報発信展示 震災支援の感謝

- ◎ 2027年国際園芸博覧会のPRコーナーを展開する。
- ◎ カタール国の東日本大震災の復興支援に対する感謝を表す展示を展開するとともに、復興の“今”を紹介するコーナーとしても展開する。



<b>コンテスト・輸出PR 花材展示スタンド</b>	◎日本から出品されたコンテスト花きや、輸出促進PRの重点品目などを紹介する場として展開する。 ◎品種コンテストの展示場所として展開する。 ◎展示品種・展示量に柔軟に対応できる形態とする。 ◎輸出用の花材のPR展示を行う。
<b>情報発信展示 農業技術</b>	◎我が国の自然と調和した持続的なライフスタイルやその中から育まれてきた花き文化や農業技術について紹介するコーナーを展開。 ◎今回の博覧会のテーマでもある「緑の砂漠、よりよい環境」、サブテーマ「テクノロジーとイノベーション」「持続可能性」等を踏まえ、砂漠の緑化、持続可能な開発等に関する技術について、研究機関、企業・団体の出展や協力による展示を行う。



<b>インフォメーション 物販コーナー</b>	◎来場者への日本出展の紹介、より積極的な交流窓口としてのインフォメーション。 ◎パンフレットその他による展示内容の紹介。 ◎来場者の情報キャッチと共に出展者への情報提供。 ◎物販対応を行う場所として利用する。
<b>フラワーアレンジ メントスタンド</b>	◎日本の花きデザイン団体などの協力のもと、「フラワーアレンジメント」の展示を行う。 ◎日本から出品された輸出促進PR花きなどを活用した日本のフラワーアレンジメント紹介する場として展開。 ◎会期期間中を通して日本の花きの文化を紹介・伝えていく場とする。



約7m

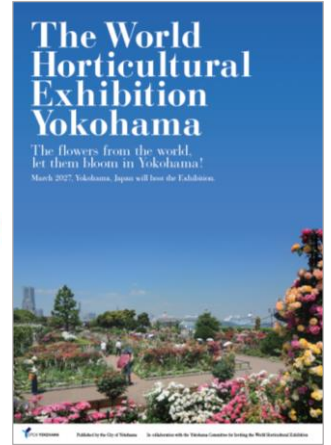
## 6 情報発信展示（震災支援の感謝）

### 2027年国際園芸博覧会のPR

2027年国際園芸博覧会について、公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会・横浜市と連携してPRを行う。  
開催概要、開催に向けた進捗状況を紹介し、開催に向けた期待感の醸成、各国等の参加促進を図る。

#### 【展開イメージ】

- ◎ PR映像の放映をはじめポスターやパンフレット等の掲出・設置
- ◎ 2027年の開催に向けた進捗状況の紹介 など
- ※ 公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会・横浜市と協議の上、実施内容を検討。



### ■ 2027年国際園芸博覧会の概要

《テーマ》

## 幸せを創る明日の風景

*Scenery of The Future for Happiness*

植物の自然資本財としての多様な価値を再認識し、持続可能な未来と誰もが取り残されない社会の形成に活用するとともに、自然との共生や時間・空間を含めたシェアがもたらす幸福感を、新たな明日の風景として可視化していくことを目指す（基本計画の開催理念）

開催期間	2027年3月19日～9月26日（約6か月間）
開催場所	旧上瀬谷通信施設（横浜市）
博覧会種別	A1（最上位）クラス
参加者数	1500万人（地域連携やICT活用などの多様な参加形態を含む）
博覧会区域	約100ha
開催組織	公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会



### 東日本大震災の復興支援に対する感謝

#### 被災地復興メッセージ

東日本大震災の復興支援に協力いただいているカタールと日本の交流事業などについて紹介する。  
具体的には、被災地の「子どもたちの教育」、「健康」、「水産業」、「起業家支援」の4分野を支援するプロジェクトを対象に支援していただいた「カタールフレンド基金」を軸に、復興支援に対する感謝の気持ちを表現する展示を検討する。  
また、被災地で生産された花きの展示も検討する。

## 7 情報発信展示（農業技術等）

### 博覧会のテーマ等に即した技術等の展示

砂漠の緑化、持続可能な開発等、博覧会テーマ「緑の砂漠、よりよい環境」、サブテーマ「テクノロジーとイノベーション」、「持続可能性」等に資する技術や植物の機能性に関する情報を、製品、映像やパネル等で紹介する。

#### 【展示技術の例】

- 水耕栽培
- 底面給水
- 壁面緑化
- 植物工場（ICT・AI活用、遮熱フィルム、LED補光・UV照射、苗の安定生産等）
- LED照明等屋内緑化技術
- 乾燥地域における風食抑制等砂漠化対処技術

#### 【イメージ】



植物工場（資料：JIRCAS）

## 8 商業活動促進支援について

日本の花き園芸文化、食品等の普及や来場促進の観点から、館内に物販コーナーを設ける。  
販売品目等の詳細については、農林水産省との協議により検討を行う。

※カタール国の法令と博覧会の関係規則等に沿って商業活動を実施する。

## 1 出展形態及び出展勸奨について

### 出展形態について

Point  
1

#### 出展期間

メイン展示（博覧会のテーマ、日本政府、屋内出展のテーマを踏まえ、園芸関連団体、企業・地方自治体等が出展展示を行う）の出展期間を最低1週間とし、出展参加の負担を軽減するとともに、出展者の希望に応じて、従来同様2週間の出展も可能とする等、フレキシブルな対応を図る。

Point  
2

#### 出展面積

出展規模は19㎡を想定しているが、出展者の希望に応じて、出展スペースを小さくした展開も可能とする。

\* 出展スペースをより小さくした場合の対応策として、空きスペースを鉢物の使用した目隠しや、鉢物と床几等を使用した休憩コーナー等の展開を行う。

Point  
3

#### 出展参加内容の多様化

出展者自身が現地へ赴き、「装飾展示」「品種展示」を行う従来の方法に加え、オンラインを活用した出展形態等も検討する。

##### 【展開例】

- ① 出展者が1週間現地に赴き、「装飾展示」「品種展示」を行う。
- ② 出展者が現地へ赴き、「装飾展示」「品種展示」を行いその後帰国するが、展示自体は1週間実施。  
※ 現地でワークショップ・デモンストレーション等の実施可能
- ③ 花きみの参加  
・ 出展花きを現地へ送付し、現地の花き専門スタッフが「装飾展示」「品種展示」を行い、1週間展示する  
※ リアルとオンラインを組み合わせたハイブリット参加可能  
（出展者が事前に花きなどを現地に送付。モニターを利用して現地と組み合わせたワークショップ等を実施）

また、従来型では、花を中心とした出展参加に限定していたが、今回は、博覧会テーマ「緑の砂漠、よりよい環境」に即した農業技術の出展も可能とすることで、参加者の間口の拡大を図る等、新しい出展形態を検討する。

#### 知的財産権の確保

種苗登録をしていないものは、簡単に手の届かない場所に展示するなどの工夫を行い展示する。

#### ■ 展示物の入替時の撤去及び展示装飾作業について

展示物の入替時の撤去及び展示装飾作業については、ドーハ博覧会事務局と協議を行い、ブース閉鎖を行い、昼間の作業とする検討を行う。

## 出展参加フロー

4月	出展勸奨期間	出展募集要項に基づき出展の呼びかけ	日本国政府出展の概要と全体テーマ 出展コーナー、商談コーナーの説明
5月	出展説明会	全体テーマの説明と出展業務の詳細説明	出展者説明会もしくは個別説明
6月	出展者集約	出展勸奨の集約による展示スケジュール構成	
8月末	出展の締切	出展参加の決定	期間の調整決定
	展示企画期間	展示内容の検討	必要に応じて事務局と相談
1カ月前	展示企画締切	出展者の展示プランの提出	事務局へ提出
	展示企画締切	出展事務局と出展者との調整	事務局が窓口となり、出展者とデザイン調整
	デザイン決定	出展者の展示デザインの決定	船便輸送などがある出展者は輸送開始
本番	デザイン管理	現地事務局確認	出展作業が予定通り実施されているか確認

## 2 花きPR・コンテスト出品勸奨について

### 出品勸奨の考え方

2023年ドーハ国際園芸博覧会の開催期間（2023年10月2日～2024年3月28日）は、春から秋に開催される過去の多くの園芸博覧会と大きく異なるため、以下をポイントに出品勸奨を行う。

Point  
1

**これまで時期的に出品できなかった品目を出品するよい機会。**

これまで季節的に出品できなかった品目の出品の機会であることを周知し、出品が促進されるよう募集活動を行う。

【今回の博覧会開催期間の「切花の品目」と「鉢物の品目」の一例】

切花	キク、ボンバイケイトウ、ダリア、カーネーション、バラ、（トルコギキョウ）、グロリオサ、オキシペタルムハボタン、シンビジウム、ユリ、スイートピー、ランキユラス、チューリップ、モモ、サクラ、フリージア、リモニウム、アルストロメリアアスター、スカビオサ など
鉢物	キク、ダリア、ハボタン、シンビジウム、ファレノプシス、ユーフォルビア（ポインセチア）、シクラメン、ランキユラス、ボケ、ツバキ、アザレア、プリムラ、マーガレット、クレマチス など

Point  
2

**コンテスト出品に加え花きPRの出品にも重点を置いた出品勸奨を実施。**

AIPHの基準に基づくコンテストで国際的な評価を得ることを目標とするとともに、この時期に国際的な園芸博覧会で花きの展示・PRができる価値をお伝えし、花きのPR展示への参加を呼びかける。PR花材の展示が、期間中安定的に行えるよう生産者・市場関係者等へ情報提供をする。

Point  
3

**植物防疫上の規制、輸入の条件に関する情報提供。**

カタールへの花きの輸送（輸出）実績が少ないため、花き輸出に関する条件を速やかに確認し、出品希望者に情報提供を行う。この時期に輸出経験のない出品者にも、必要な情報を提供し、出品参加しやすくなるよう配慮する。

### 勸奨活動

花き卸売市場関係者、花き団体担当者等と連携して随時最新の情報を集め、広くアプローチを行う。カタールへの植物防疫上の条件を速やかに確認の上、秋から春（10月～3月）にかけての時期に出品可能な品目、輸出重点品目等の情報を整理し、生産者、育成者、輸出事業者（花き市場や生産者等）に呼びかけを行う。



## 1 花き専門スタッフの募集と研修

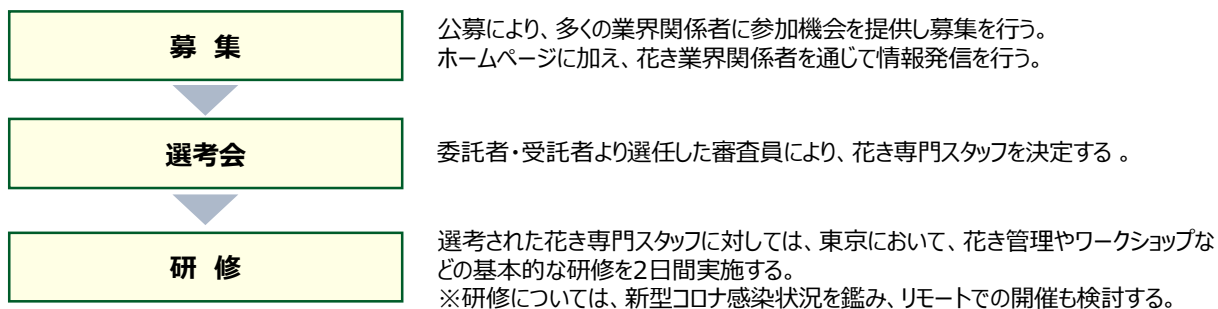
花きに関する専門知識を有し、展示物の維持管理、来場者対応、運営管理業務等を支援する花き専門スタッフについては、開会期間が6ヶ月と長いことから、これまでの国際園芸博覧会と同様、前期と後期の2期に分けて募集を実施する。

前期	後期
3カ月×5名（程度）	3カ月×5名（程度）

花き専門スタッフの構成は、流通・小売・生産者・フローリスト（いけばな）等、花き業界関係者を想定し、業務内容とそれに応じた必要人数を提示して広く公募を行う。応募いただいた候補者に対して選考会を開催して花き専門スタッフを決定する。

※花き業界における人材育成の観点から、応募者は過去類似（フェロー2012、アンタルヤ2016、北京2019、アルメーレ2022）の専門スタッフ参加が1回までの方とする。

決定した花き専門スタッフに対しては、東京で研修会（2日間）を行い、当事業の目的や実施内容、基本的な技術研修等を行う。



## 1 オープニングセレモニー

日本の出展区画において、日本からの来賓・出席者、日本国大使館関係者等の参加の下にオープニングセレモニーを開催する。カタール国側が主催する開幕式が別途開催される見込みであることから、その日程も踏まえ、可能な範囲で博覧会事務局等カタール側の関係者を招待する。例えば、博覧会初日の午前中に下記プログラムを行い、午後から一般開放とすることを検討する。

### 日本国政府出展 オープニングセレモニー

日本政府出展のオープニングとして、農林水産省が担当する「屋内出展会場」でのテープカットセレモニー、国土交通省が担当する「屋外出展会場」でのセレモニーを開催し、連携して一体感のあるセレモニーとする。花き等園芸関係者や造園関係者の協力を得て、伝統ある日本文化のデモンストレーションやワークショップを実施することで、来場者へ日本出展のイメージを深く印象付ける。現地日本人コミュニティ等の協力による和装のアテンド等についても可能な範囲で検討する。



2022年オランダ・アルメーレ国際園芸博覧会の様子

## 2 ジャパンデーイベント

ナショナルデーとして設定される「ジャパンデー」とその関連イベントを「ジャパンデーイベント」とし、日本とカタールの交友の場とする施策を実施する。なお、出展国に対するナショナルデーの設定については、政府代表である在カタール日本国大使館を通じてカタール政府及び、博覧会事務局と調整を行う。

### ジャパンデーセレモニー（カタール政府主催）

ジャパンデーのセレモニーはカタール政府側が主催となり、日本側の主賓が招待される。セレモニーでは日本側の文化プログラムの披露も行う。



## ジャパンデー アトラクション (日本政府主催)

ジャパンデーのメインアトラクションとして、来場者に向けてステージパフォーマンスを実施することを検討。  
例えば、現代技術のバーチャル・リアリティと日本の文化の象徴である書道を掛け合わせた「VR書道パフォーマンス」に加え、ステージ上では日本産花き等を使用したフローリストのパフォーマンスとの融合も検討。  
リアルな和楽器の音楽に合わせてバーチャル空間のなかでメッセージを表現することで、印象的な発信を演出する。  
また、VR書道やARフラワーデザインを実際に体験していただくことも可能。  
カタル国等へ日本の花き文化・伝統芸能を発信するとともに、両国の交流の一層の推進を目的として展開する。  
参加者はスクリーンに映し出されるバーチャル映像と現実のステージパフォーマンスを同時にご覧いただく。



### 「プログラム案」

- ・VR書道パフォーマンス
- ・ARフラワーデザイン
- ・日本の各種音楽によるおもてなし

## 日本国政府ジャパンデー レセプション (日本国政府主催)

カタル側主催のセレモニーへの日本側の答礼レセプションとして、会場内にてカタル側の政府、博覧会事務局、他の公式参加者（出展国・国際機関）などを招待し、レセプションパーティーを開催する。条件を検討した上、必要に応じて日本食のケータリング等も用意したおもてなしを行う。

レセプションにおいては、カタルの招待者に向けて、いけばなパフォーマンスなどの検討を行う。



2019年中国・北京国際園芸博覧会の様子

### 3 クロージングセレモニー

日本国政府出展展示会場のクロージングセレモニーを実施する。日本国出展に尽力いただいた方を中心に招待するが、カタール国側が主催する閉幕式が別途開催される見込みであることから、その日程も踏まえ、可能な範囲で博覧会事務局等カタール側の関係者も招待し、感謝の意を表する。

#### 日本国政府クロージングセレモニー

日本国政府のクロージングセレモニーとして、感謝の意を表すとともに、出展にご尽力いただいた方々に可能な限り来場いただき実施する。



2019年中国・北京国際園芸博覧会の様子

### 4 ビジネス意見交換会

カタール国をはじめとする中東地域への日本産の花きの輸出は極めて少ない実態にあることから、本園芸博覧会を契機とした輸出拡大に資するため、生産・流通・消費等花き園芸関係者、学識経験者等による両国の意見交換会を開催し、需要動向、輸出拡大の可能性について検討する。

ジャパンデーに合わせた開催を検討するとともに、意見交換の参考とするため、それに先立ち、日本の花きやその展示について、カタール側の関係者の意見を伺う機会を設けることも検討する。

テーマ案

#### 花き(切り花、盆栽、植木等)の需要動向と今後の輸出ビジネス等の拡大について



意見交換会イメージ



一般展示イメージ



リゾートホテルのフラワーアレンジメントイメージ

## 5 体験・交流イベント

花や緑をはじめ、日本のいけばな、盆栽等花き文化をはじめとする独自文化の紹介等を通じて、文化交流を深めていただくことを目的とした体験・交流イベントを実施する。基本的にはカタルール現地のボランティアを中心に、季節毎の伝統的な催事やワークショップ、デモンストレーション等を会期中を通して展開する。

### 《プログラム案》

<b>季節の催事</b>	年間行事やお祝い事に合わせたワークショップ (月見、敬老の日、ハロウィン、クリスマス、年越し、お正月、成人式、節分、バレンタイン、ひな祭り、など)	
<b>花みどり ワークショップ</b>	花のプログラム	いけばな／フラワーアレンジ／リースづくり／ミニブーケづくり
	植木のプログラム	盆栽の剪定／関守石づくり／ミニ盆栽づくり／剪定枝を活用した額づくり
	苗・鉢のプログラム	寄せ植え／サンドアート／芝ぼうやづくり／苔玉／毛糸玉 など
	植物クラフト	押し花アート／エッグボマダー など
	日本の文化・遊び	折り紙／書道 など

※現地の花材・資材などの調達状況により具体的な実施内容の検討を行う他、屋外出展とも情報共有しながら実施していく。

### 《過去の園芸博覧会における体験ワークショップ・デモンストレーション》



## 1 ホームページ及びソーシャルメディアの活用

日本国政府出展の情報プラットホームとなるホームページを日/英2カ国語で構築する。  
ホームページやFacebookを通じて、世界向けに現地の展示やコンテストの結果のリリースを行う。

ホームページに関しては、定期的に博覧会会場全体や日本国政府出展展示会場の情報更新をするとともに、コンテスト受賞作品に関する速報を発信する。

HP：2月上旬リリース [URL:https://www.dohaexpo2023.jp/](https://www.dohaexpo2023.jp/)

SNS：リリース時期調整中

### ◀WEB展開イメージ▶

すべての情報を集約し、わかりやすい構成と好印象を得るデザインを工夫することで、興味を持った方がアクセスし、行動を誘発させる重要なツールとして運用する。また、WEBメディアとして、個人のつながりを活用することで情報の新鮮さや波及力・拡散性・共有性に優れたSNS (Facebook、Instagram等) にもアカウントを開設する。

### 関与者層を広げ、口コミや「いいね」を誘発する公式サイトメディア化

社会性や受け手の関心領域に寄り添い、興味・関心を引くサイトの構築で、関与度の低い層にも「見つけてもらい」やすく、多様な切り口やストーリーのある情報を発信することで、新しい情報と接触できるサイトとして、能動的・定期的によりリードを促進する。



### SNS展開イメージ



## 2 パンフレット等（来場者用、事業者用）の制作について

### 来場者用情報発信ツールの制作

国内外業界関係者や来場者に対して出展内容等の情報を発信し、その魅力を訴求するツールを展開。ツール内容としては、展開する展示テーマや概要の紹介、花育などの情報等、日本の花き文化をより深く知っていただくことができる内容で構成・展開する。

※2言語併記（日本語・英語）

※環境に配慮したオンラインパンフレット等のツールの検討を行う。

#### 「展開イメージ」



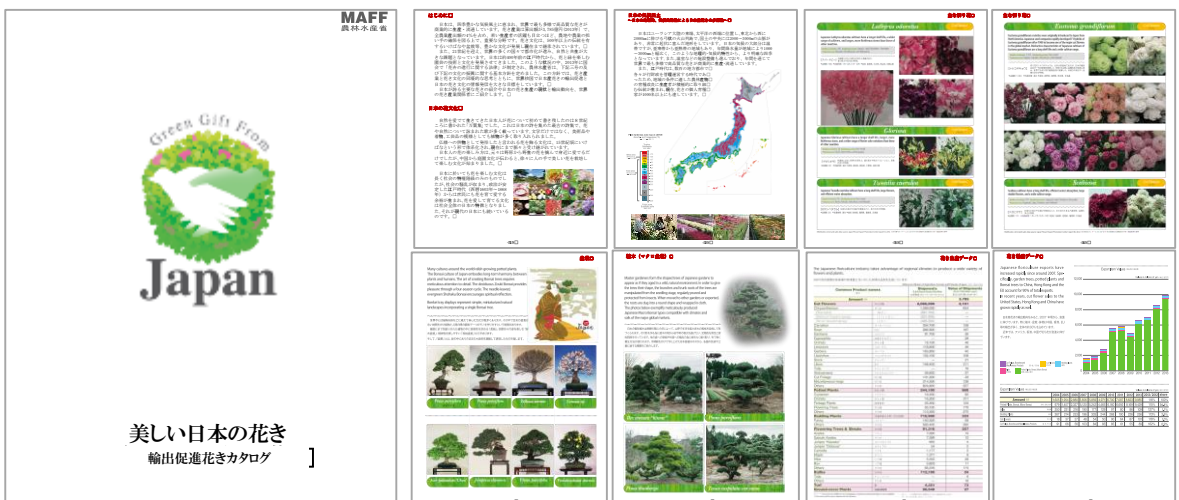
### 事業者用パンフレットの作成

国内外の関係者向けに、展示品種だけではなく、日本の花き産業や花き文化などに関する情報を取りまとめたビジネスツールとして、日本語と英語の2カ国語を併記するパンフレットを展開する。

掲載内容については、日本の花き産業や主な展示品の特徴・産地などを紹介し、輸出拡大につながる魅力的な内容を構築する。また、デザインについても、業界関係者の目を引くデザインを作成する。

※パンフレットについては、上記「来場者配布用情報発信ツール」同様、環境に配慮したオンラインパンフレット等の検討も行う。

#### 「展開イメージ」



### 3 メディア広報について

#### 日本国内の園芸雑誌・新聞を活用した情報発信

日本国内においても効果的なタイミングで、園芸雑誌や新聞へ積極的な情報提供を行う。  
また、取材要請を行うことで、メディア露出を促進。日本国政府出展の認知を図るとともに、花きと園芸業界への興味・関心喚起を図る。

#### 広報ツール（ポスター）による告知展開

博覧会広報担当者よりEXPO2023の公式ロゴ等情報を入力次第、ポスター制作を行い、花き業界、関連団体、行政等にポスター掲出の依頼を行い本事業の告知を行う。

#### 【イメージ】



#### 《制作部数等》

サイズ : B2

制作部数 : 500部